

令和6年度介護福祉等に係る講習会

2024. 8. 27 Tue.

全国福祉高等学校長会主催「介護福祉等に係る講習会」7日目となりました。

【介護過程】

介護過程に通じる介護の考え方を理解しやすく説明していただいた。はじめに、情報収集の前に、まず自分を知ってもらうことが大切だということで、自己紹介をしていただいた。先生が子どもの頃、お母様から「おばあさんの手が動かなかくなったら手になってあげればいい」と言われたことが、後に介護の基本だと思ったと言われた。

高校時代のはじめての施設でのボランティアでは、施設で利用者がぼんやりしていたり、食事の場面では、介護者が食事を全部混ぜて効率よく食べさせるといった当時の介護の状況に驚きながらも、認知症のある高齢者との関わりが進路選択に繋がったそうである。専門学校での介護実習の出来事や実習施設での利用者体験のエピソードから、先生の人柄や介護に対する気付きが伝わり、興味深く聴かせていただいた。

また、介護は人間教育であり、介護福祉士は単なる資格である。人間力の高い介護福祉士を育てることが重要であると教えていただいた。

介護のやりがいは、高齢者の笑顔と幸せであり、考えることで笑顔と幸せの理由(根拠)がわかるということの説明いただいた。高齢者が施設に入所しながら地域で役割を持ち自分らしく生活することなどについて生徒にしっかり伝える必要があると確認できた。

「あなたは仏か、それとも鬼か？」について説明いただき、利用者にとって仏か鬼かは、担当職員が誰であるかが一大事ということであり、教育と介護に共通しているが、相手にとってどんな存在か知り、プロとして自己コントロールが必要であると教えていただいた。また、安全だけを重視すると、できることも規制することになり、支援ではなく支配してしまうことも介護と教育に共通していることを教えていただいた。

介護では、利用者の選択が大切であり、強制せずに適切な声かけを行うことで相手に気持ちを動かしていただけるようにすること、職員ではなく利用者に謝罪したり、了解を得る必要性、安心して生活していただくことが重要であることなどを確認できた。

介護過程について、「よりよい生活」「よりよい人生」とは何か、また、どの様に教えているか話し合った。今の生活がよい生活だとすれば、よりよい生活とは何だろう。また、自分らしさとは何かを説明することは実際には難しいことである。

利用車の生活の中での「こだわり」は大切な情報であり、食事の順番、からだを洗う順番、着替えの順番、トイレでの動作など、誰にでも多くの「こだわり」があり、それらについてきちんと情報収集を行い、介護に活かすものであることを改めて確認することができた。

大切なものや大切な人、大切な日常生活を用紙に記入し、自分が癌になったと仮定して失う3つに×をつける、次に入院したと仮定して失う3つに×をつける、次に治療してもよくならずに帰れないと仮定して失う3つに×をつける、そして余命宣告をされたと仮定して失う2つに×をつけるという演習を行った。失っていく、忘れていくことが老いていくことであり認知症になることであり、私たちはわからないなりに、そのことを想像することが大切であると教えていただいた。

